



2023 年 4 月 12 日

最近の愛媛県の輸出動向

日本銀行松山支店

本稿の内容について、商用目的で転載・複製を行う場合は、予め日本銀行松山支店までご相談ください。

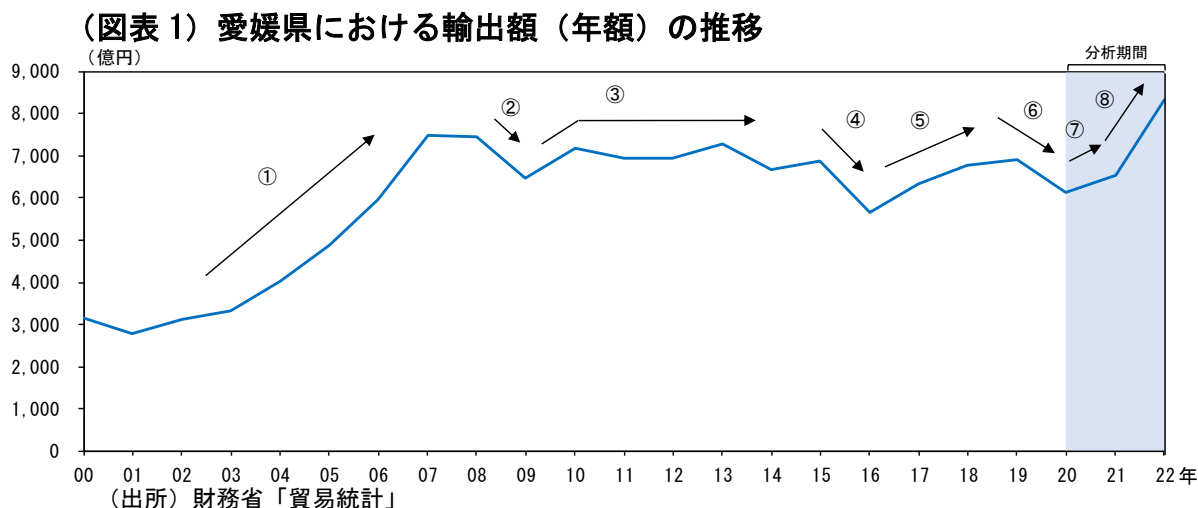
転載・複製を行う場合は、出所を明記してください。

本稿は、太田瑚己奈（現・金融機構局）が担当しました。

[照会先] 日本銀行松山支店総務課（089-933-2213）

1. はじめに

愛媛県の輸出額の 2000 年以降の動きを概観すると、①2000 年から 2007 年にかけて 7,500 億円まで増加した後、②2009 年にはリーマンショックに伴う世界経済減速の影響から 6,470 億円（2007 年比▲13.7%）まで減少、③2010 年に持ち直した後は概ね横ばい圏内の動きが続いたが、④2016 年には中国をはじめとした新興国経済減速の影響を受け 5,649 億円（同▲24.7%）まで再び減少、⑤2017 年以降は持ち直し基調にあったものの、⑥新型コロナウイルス感染症（以下、感染症）が拡大した 2020 年に 6,120 億円（同▲18.4%）まで減少、⑦その後は、世界的に経済活動が再開されるもとで 2021 年には持ち直しに転じ、⑧2022 年にはこれまでの水準を大きく切り上げ、過去最高となる 8,342 億円まで増加する姿となっている（図表 1）。



本稿では、感染症が発生した 2020 年以降の愛媛県の輸出動向について、貿易統計¹や企業物価指数（輸出物価指数）²を用いて、数量面・価格面に分けて分析し、感染症による落ち込みから一転して過去最高まで増加した背景などについて整理した。

同時に、愛媛県が全国的にも高い生産量を誇る農水産物（魚介類、果物）の輸出についても、2022 年には過去最高水準にまで増加していること、国や自治体による施策も活発化していることから、最近の動向を整理した。

¹ 財務省が、日本から外国への輸出及び外国から日本への輸入について、税関に提出された輸出入の申告を集計・公表している。このうち、本稿では、我が国から輸出され又我が国に輸入された貨物について、金額及び数量を品目別、国（地域）別等にした「普通貿易統計」を使用している。

² 日本銀行が、輸出品の通関段階における船積み時点の価格を調査したうえで、円・契約通貨ベースの双方の指数を作成・公表している。

なお、本稿で分析する愛媛県の輸出額は、貿易統計における、松山港（含む松山空港）、今治港、新居浜港、三島川之江港、宇和島港の5港に蔵置された貨物の通関額を合計したものである。この点、愛媛県外から持ち込まれた貨物が含まれる一方で、愛媛県内から上記5港以外の港（県外の港）に持ち出された貨物は含まれない点には留意する必要がある。

2. 愛媛県における輸出の特徴

① 品目別

愛媛県の輸出額（2020～2022 年の3年平均）を品目（大分類³）別にみると、「機械類及び輸送用機器」（44.4%）、「化学製品」（24.6%）、「原料別製品」（19.0%）が上位3品目となっている。このうち、最も割合の大きい「機械類及び輸送用機器」を仔細にみると、「船舶類」（71.9%）の割合が非常に大きく、次いで「繊維機械」（7.9%）、「電気計測機器」（7.0%）、「農業用機械」（4.7%）、「原動機」（2.3%）となっている（図表2）。

これを全国と比較すると、上位3品目は同じであるものの、愛媛県は「化学製品」や「原料別製品」といった素材品目の割合が全国よりも大きいほか、「機械類及び輸送用機器」の内訳をみると、自動車関連や半導体関連の割合が大きい全国とは、構成が異なっている。

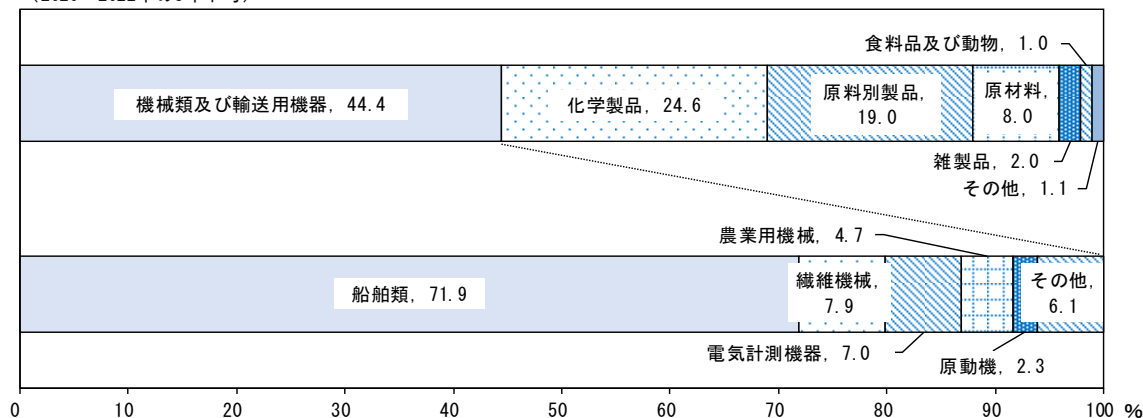


³ 本稿では、貿易統計に記載されている概況品コード1桁の品目を「大分類」と定義する。

(図表 2) 品目別の内訳

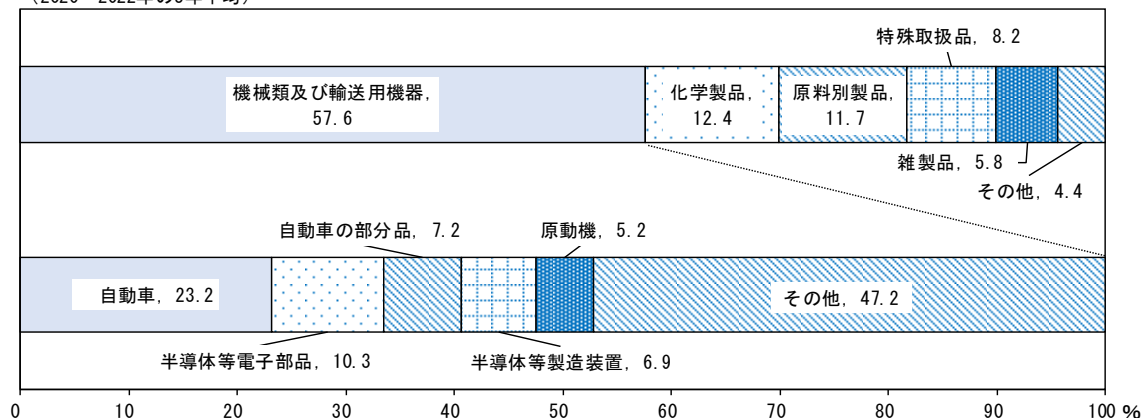
<愛媛県>

(2020～2022年の3年平均)



<全国>

(2020～2022年の3年平均)



(注) 愛媛県、全国ともに、上段は概況品コード1桁、下段は概況品コード5桁の品目を用いて算出。

(出所) 財務省「貿易統計」

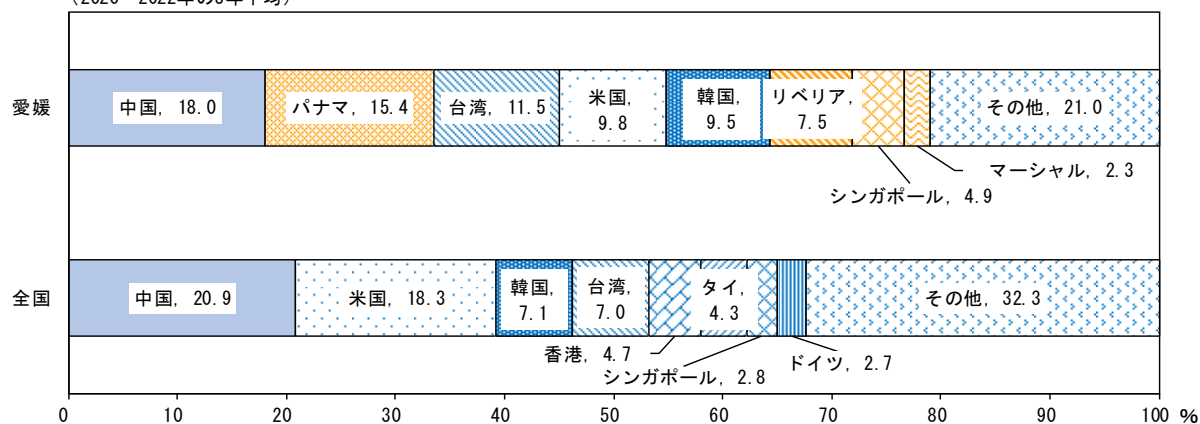
② 輸出国別

愛媛県の輸出額を輸出国別にみると、中国（18.0%）の割合が最も大きく、次いでパナマ（15.4%）、台湾（11.5%）、米国（9.8%）、韓国（9.5%）、リベリア（7.5%）、シンガポール（4.9%）、マーシャル（2.3%）の順となっている（図表3）。

これを全国と比較すると、中国の割合が最も大きい点や、台湾や韓国を含めた東アジア圏および米国の割合が大きい点は同様であるが、愛媛県は船舶類の輸出の割合が大きいことから、世界最大の船籍国であるパナマをはじめ、リベリアやシンガポール、マーシャルといった船籍国が上位に入っている点が、全国とは異なっている。

(図表 3) 輸出国別の内訳

(2020～2022年の3年平均)



(注) 船籍国はオレンジ色の背景で統一。

(出所) 財務省「貿易統計」

3. 最近の輸出額の変化とその背景

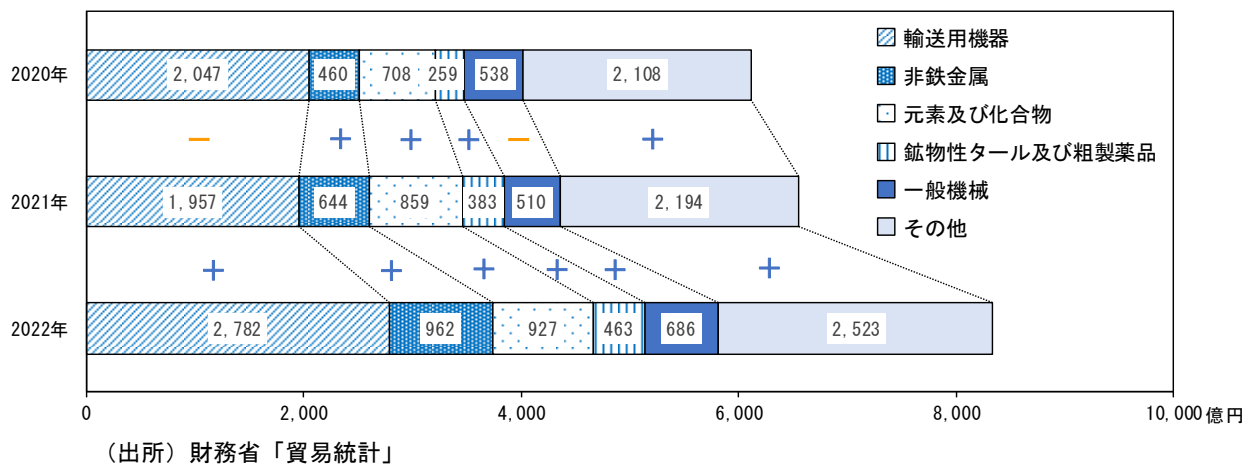
(1) 品目別の動向

2020年から2022年にかけての愛媛県の輸出額は、先述したとおり、感染症の影響を受けた2020年以降、これまでの水準を大きく切り上げ、2022年には過去最高額まで増加している。まず、この間の動きを品目（中分類⁴）別にみると、2020年から2022年にかけて増加幅が最も大きかった上位5品目は、船舶類を含む「輸送用機器」（+735億円）、「非鉄金属」（+502億円）、「元素及び化合物」（+219億円）、「鉱物性タール及び粗製薬品」（+204億円）、「一般機械」（+148億円）となっている（図表4）。

これをより仔細にみると、「非鉄金属」、「元素及び化合物」、「鉱物性タール及び粗製薬品」については、2年連続で増加した一方、「輸送用機器」と「一般機械」については、2020年から2021年にかけては減少し、2021年から2022年にかけて大幅に増加している。

⁴ 本稿では、貿易統計に記載されている概況品コード3桁の品目を「中分類」と定義する。

(図表 4) 品目別にみた変化 (2020 年→2022 年、愛媛県)



(2) 要因分析

① 価格要因と数量要因

次に、2020 年から 2022 年にかけて増加幅が大きかったこれらの上位 5 品目について、貿易統計から取得可能な数量データを用いて、この間の輸出額の変化を数量要因と価格要因に分けて分析した。

具体的には、「輸出額＝単価×数量」と捉え、輸出額を数量で除して単価を算出したうえで、各品目の 2022 年の数量・単価・輸出額を 2020 年を 100 として指数化し、この間のそれぞれの変化幅を試算した⁵。

その結果(図表 5)をみると、数量が 2020 年の水準を上回っているのは「非鉄金属」と「一般機械」のみとなっている一方、価格(単価)はいずれの品目も 2020 年の水準を上回っており、なかでも「元素及び化合物」、「鉱物性タール及び粗製薬品」といった素材品目の上昇が目立っている。また、価格(単価)よりも数量の増加幅が大きい品目は「一般機械」に限られ、それ以外の品目は価格(単価)の増加幅の方が大きくなっている。

⁵ 「鉱物性タール及び粗製薬品」以外の品目については、中分類全体での数量データが公表されていないことから、試算に際しては、数量データが公表されている内訳品目の中で輸出額の割合が最も大きい品目(主要品目)の数量データをそれぞれ用いている(輸送用機器：船舶類、非鉄金属：銅及び同合金、元素及び化合物：無機化合物)。一般機械の数量データについては、品目毎の輸出額の割合に大きな差がない(主要品目が一つに絞れない)ことから、この 2 年間で特に増加額の大きかった「トラクター(除道路走行用)」および「紡糸機、ねん糸機及びかせ機」の加重平均値を用いている。

(図表 5) 数量・単価・輸出額別の変化幅

(2020 年=100)

	数量	単価	輸出額
輸送用機器	89.6	151.1	135.3
非鉄金属	114.3	185.0	211.5
元素及び化合物	92.8	222.2	206.2
鉱物性タール及び粗製薬品	75.8	235.8	178.8
一般機械	118.3	112.9	133.3

(出所) 財務省「貿易統計」

以上のことから、この間の輸出額の増加には、数量要因よりも価格要因が寄与していたものと推測される⁶。

② 価格の変動要因

さらに、輸出額の増加に大きく寄与した価格要因について、企業物価指数のうち輸出物価指数を用いて、この間に上昇した背景を分析した。

具体的には、輸出物価指数の中から上記①で分析した 5 品目に近い品目を抽出⁷し、それぞれの円ベースと契約通貨ベースのデータを用いて、「為替要因」と「為替以外の要因」（市況要因、需給要因など）別に整理した⁸。

なお、輸送用機器については、愛媛県の輸送用機器は「船舶類」が大部分を占めるなか、輸出物価指数の輸送用機器に含まれる「鋼船」の割合は相対的に小さいほか、「鋼船」の指数は円ベースと契約通貨ベースが等しい（為替要因などが反映されていない）といった点などを踏まえ、分析対象から外している。



⁶ あくまで増加額の大きかった上位 5 品目の動きかつ、そこからさらに分析対象の品目も絞り込んでいるため、幅をもってみる必要がある。

⁷ 非鉄金属は「非鉄金属」、元素及び化合物と鉱物性タール及び粗製薬品は「化学製品」、一般機械は「生産用機器」の輸出物価指数を使用。

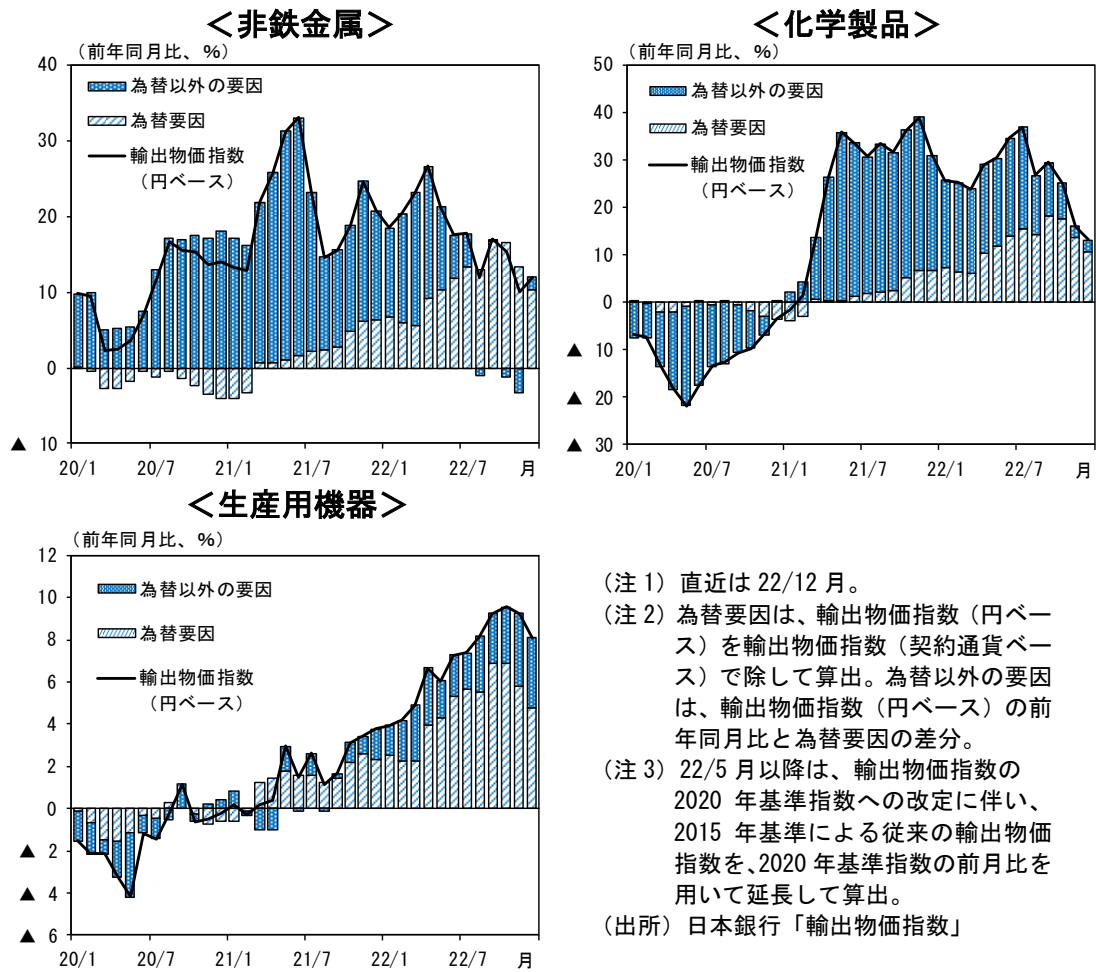
⁸ 輸出物価指数は調査範囲が愛媛県に限定されていないことに加え、①で分析した品目と輸出物価指数から抽出した品目は、必ずしも正確に対応している訳ではない（①で分析した品目以外も輸出物価指数の品目には含まれている）ため、ここでの分析結果は幅をもってみる必要がある。

その結果（図表 6）をみると、次のとおり。

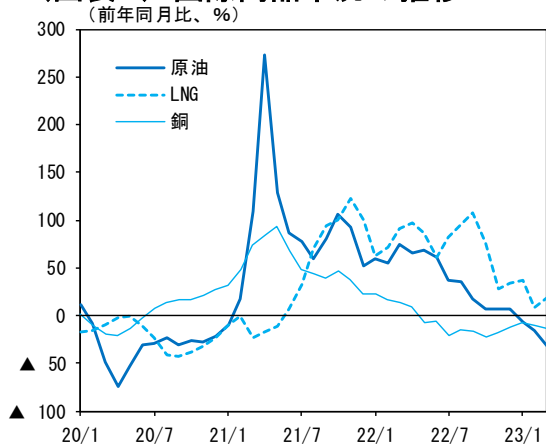
- i. 「非鉄金属」では、2021 年 2 月まで「為替以外の要因」が輸出物価に対してプラス、「為替要因」がマイナスに寄与していたが、2021 年 3 月以降は「為替以外の要因」が引き続き大きめにプラスに寄与するも、で、「為替要因」もプラス寄与に転じ、徐々に寄与度を拡大していった。もっとも、2022 年 8 月には、「為替以外の要因」がマイナス寄与に転じたほか、「為替要因」についても、2022 年 10 月以降はプラス寄与の縮小がみられた。
- ii. 「化学製品」では、「為替以外の要因」が 2020 年 11 月まで一貫して輸出物価に対してマイナスに寄与したほか、「為替要因」も 2021 年 2 月までのほとんどの期間、マイナスに寄与した。もっとも、その後は両者ともプラス寄与に転じ、「為替以外の要因」を中心に寄与度が拡大した。もっとも、2021 年 6 月以降は「為替以外の要因」のプラス寄与度が縮小傾向となり、2022 年 10 月以降は僅かなプラス寄与に留まった。また、「為替要因」についても、2022 年 11 月以降はプラス寄与の縮小がみられた。
- iii. 「生産用機器」では、2020 年 7 月までは「為替要因」、「為替以外の要因」ともに輸出物価に対してマイナスに寄与し、その後もしばらくはそれぞれの要因がプラス・マイナスの双方に入れ替わりで寄与する形で推移した。もっとも、2021 年 3 月以降は「為替要因」がプラス寄与となり、2022 年 9 月までは徐々に寄与度を高めていった。この間、「為替以外の要因」は「為替要因」よりも寄与度が小さいものの、概ね拡大傾向がみられた。
- iv. 以上をまとめると、素材品目である「非鉄金属」、「化学製品」は、2021 年には「為替以外の要因」、2022 年には「為替要因」が大きめにプラスに寄与する形で、2021 年以降、輸出物価が前年同月を大きめに上回って推移している。
- v. 加工品目である「生産用機械」は、素材品目に比べると「為替以外の要因」によるプラス寄与は限定的であり、「為替要因」のプラス寄与が一貫して大きくなっている。

上記のとおり、素材品目において 2021 年に「為替以外の要因」が大きくプラスに寄与した背景には、コロナ禍からの経済活動再開などに伴う国際商品市況の上昇が影響したものと考えられる（図表 7）。また、各品目とも、2022 年以降に「為替要因」のプラス寄与が上昇している背景には、2022 年入り後の急激な円安進行が影響したものと考えられる（図表 8）。

(図表 6) 輸出物価指数の要因分解

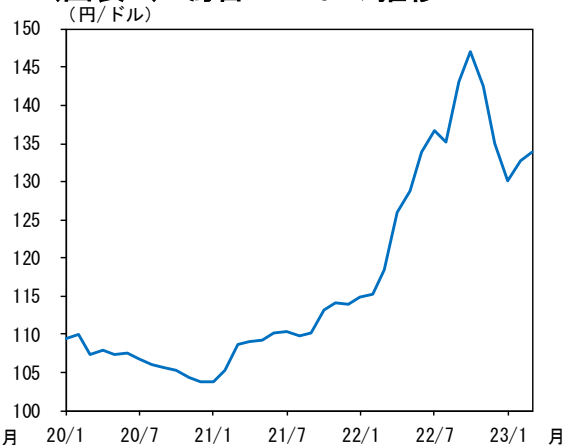


(図表 7) 国際商品市況の推移



(注) 直近は 23/3 月。
 (出所) 世界銀行「World Bank Commodity Price Data」

(図表 8) 為替レートの推移



(注) 直近は 23/3 月。東京市場（インターバンク）におけるドル・円スポット中心相場を月中平均した為替レートを使用。
 (出所) 日本銀行「外国為替市況」

（３）分析結果

以上から、愛媛県の輸出額が感染症の影響を受けた後に過去最高額まで増加した要因としては、数量（≡需要）の増加による押し上げは限定的であり、国際商品市況の上昇や為替円安といった市場環境の変化に伴う価格（単価）の上昇が大きく寄与したものと推測される。

４．農水産物の輸出動向

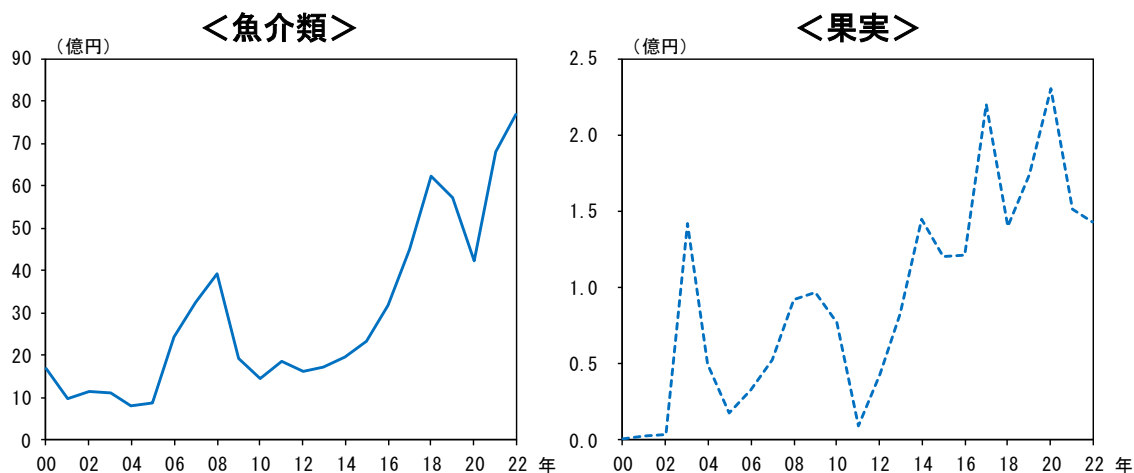
最後に、農水産物の輸出について、最近の動向を整理する。

愛媛県の農水産物の輸出については、輸出額全体に占める割合は僅か（図表２の「食品及び動物」＜1.0％＞の大部分）であるものの、2020年代入り後の水準は、2010年代の増加もあり、2000年代と比べて大きく切り上がっている。

例えば、「魚介類」は、2000年から2005年までは10億円前後で推移していたところ、2008年には39億円、2018年には62億円まで増加。2020年（42億円）には、感染症に伴う経済活動の停滞などから、他の品目と同様に大きめに減少したものの、2021年には持ち直し、2022年には77億円と過去最高額を記録している（図表９左）。

「果実」についても、2002年までは数百万円程度であったものの、その後は、振れを伴いつつ、2016年以降は2億円前後の高めの水準で推移している（図表９右）。

（図表９）農水産物の輸出の推移（愛媛県）



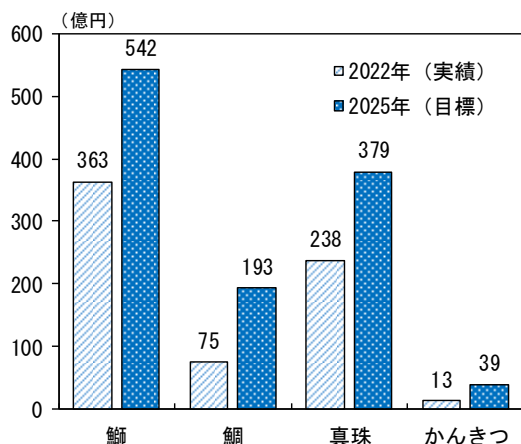
（出所）財務省「貿易統計」

愛媛県において農水産物の輸出額が増加している背景には、海外における日本食需要が増加するなか、政府や愛媛県による施策が奏功しているものと考えられる。

例えば、政府では、農水産物の輸出拡大に向けた支援を幅広く展開しており、なかでも当地との関わりが深い鰯、鯛、真珠、かんきつは、海外からの評価の高さから輸出拡大の余地が大きいとして輸出重点品目に選定され、具体的な目標額や方策も設定されている（図表 10）。愛媛県におけるこれら 4 品目の収穫量は、全都道府県の中でも上位に位置している（図表 11）ことを踏まえると、2025 年に設定された目標額に向けて全国的に輸出が増加する過程においては、愛媛県からの輸出も相応に伸長することが期待される⁹。

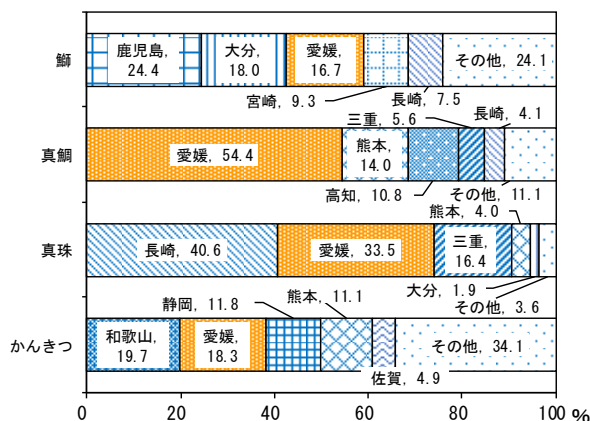
愛媛県においても、輸出拡大に向けた団体 — 「愛育フィッシュ輸出促進共同企業体（オレンジウェーブ）」（愛媛県で育てた魚を官民一体となって海外市場をターゲットに販路拡大に取り組む共同企業体） — の設立や、HACCP などの輸出に必要となる認定・認証獲得の支援、商談会の開催といった輸出支援策を展開している。こうした施策の効果もあり、県内の食品関連会社の中には、海外での販路拡大に向けた取り組みを進める先もみられている。

（図表 10）輸出重点品目の輸出額



（出所）農林水産省「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」、「令和 4 年農林水産物・食品の輸出額」

（図表 11）都道府県別の収穫量



（注）鰯・真鯛・真珠は 2021 年における養殖魚種別収穫量。かんきつは「みかん及び中晩」の 2020 年における収穫量の合計値。

（出所）「令和 3 年漁業・養殖業生産統計」、「令和 2 年産特産果樹生産動態等調査」、「令和 2 年産果樹生産出荷統計」

⁹ 図表 11 の収穫量の割合に比べると、図表 10 の各品目の 2022 年実績に占める図表 9 の愛媛県からの輸出額の割合は小さくなっているが、これは 2 ページに記載した通り、愛媛県内の 5 港以外の港（県外の港）に持ち出された貨物が相応にあるためだと考えられる。

5. おわりに

愛媛県の輸出額は、2020年から2022年にかけて増加を続け、過去最高額となった。今回の分析結果から、これには市場環境の変化に伴う価格（単価）の上昇が大きく寄与してきたとみられる。もっとも、足もとでは国際商品市況がピークアウトしていることや、為替相場も一頃に比べると円高水準にあることを踏まえると、価格上昇による押し上げ寄与は徐々に縮小するとみられる。また、世界的な物価高やそれに伴う利上げの影響によって、海外経済の回復ペースが鈍化していることも考慮すると、今後の輸出動向については、価格面・数量面（≡需要面）それぞれにおいて予断を持たずみていく必要がある。

農水産物については、国内消費量が減少傾向にあるなか、輸出を強化することは生産量の維持・拡大、ひいては愛媛県内の第一次産業の発展にも寄与すると思われることから、今後も官民が連携して輸出拡大に向けた取り組みが進められることが期待される。

以 上